

故本會評議員 澁澤正雄君小傳

君は故子爵澁澤榮一氏の三男として明治二十一年十一月出生、大正四年分家して一家を創立す。明治四十一年第一高等學校に入學、大正四年東京帝國大學法學部經濟科を卒業後、第一銀行に入社せしが、同六年之を辭し爾來澁澤貿易、富士製鋼、汽車製造、石川島造船所、石川島自動車、石川島飛行機、秩父鐵道、富士鋼材商會、日本鋼製建具、日本煉瓦製造、昭和鋼管、日本鋼管等の重役たりしが、昭和七年以降之等關係諸會社を辭し、製鐵事業に専念し、昭和九年製鐵合同と共に日本製鐵取締役に就任し、昭和十五年同社常務取締役兼八幡製鐵所長に、同十七年同社取締役副社長に累進し、八幡製鐵所々長を兼ね。由來同氏の干與せる事業は其數極めて多く枚舉に遑なきも。氏の最も心血を濺ぎたるは鐵鋼關係諸事業にして、昭和九年鐵鋼協議會理事に就任以來、半製品、棒鋼、形鋼、線材、帶鋼、鋼板、鋼塊、鋇力、薄板、鍛鋼の各組合理事長、日本鋼材販賣株式會社取締役會長、日本銑鐵協議會々長、日本鋼管販賣聯合會取締役、日本鐵鋼聯合會副會長、日本鐵鋼原料統制株式會社取締役、鐵鋼統制會評議員等に就任し、加之商工省鐵鋼統制協議會委員、同省鐵鋼生産統制に關する事務を囑託せらるゝ等本邦製鐵事業の一大進展期に際し、鐵鋼の生産、販賣並に之が統制に關し各方面に互り畢生の努力を傾注せられたるは、蓋し他に匹儔を見ざる所なり。尙ほ氏は前後渡滿五回、歐米外遊三回に及び、鐵鋼業視察の外、國際的にもその足跡を印せられたるが、特に本會に對しては、昭和七年四月以來十有餘年に互り評議員に當選し本會事業に對し常に充分なる理解を保ち、其の發展に寄與せられたる、その功績尠なからず、偶々不幸病を得、名古屋帝大病院に入院加療せられたるも天此の人に壽を借さず、齡未だ耳順に達せずして本年九月十日溘焉として逝去せられたるは、實に痛惜に堪えざる所なり。

社團法人 日本鐵鋼協會